

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671300550		
法人名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
事業所名	グループホーム平野のどかの里		
所在地	徳島県那賀郡那賀町平野のどかの里		
自己評価作成日	平成27年11月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成12月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

学校の廃校跡地を改造した木造建のグループホーム、お一人お一人の居室が広くゆったりとできる空間があり木のぬくもりが、あたたかく感じる。廊下は長く毎日の生活がリハビリとなりほとんどの方の筋力強化に貢献している。又、事業所の廊下、運動場、体育館は地域の方が集う場である為月単位のイベントがある。施設の夏祭りは毎年コミュニティと合同開催している。地域の中で地域の方に支えられながら素晴らしい環境の中で生活させて頂いている。地域の方からは新鮮な食材の差し入れもあり季節感が把握でき旬のお野菜を頂いている事が利用者様の体調安定に繋がっていると感じる。9年目で2錠服用していた薬が不必要となり糖尿病が完治された方もおいで。又、窓が広いため室内から四季折々の風景が見える事は最高に気持ちよい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、小学校の跡地を活用した建物となっており、居室は和室と洋室から選ぶことができる。居室は日当たりが良く、掃除も行っており清潔な環境整備に取り組んでいる。共用空間はゆったりとした間取りとなっており、窓から一望できる風景は開放感に満ちており、室内からも、春には桜や冬の寒い日には雪景色など、季節の移ろいを感じることができる。利用者と職員で献立を考え、ともに調理を行って楽しく食卓を囲んでいる。家庭的な雰囲気ながら、笑顔のあふれる居心地の良い空間となっている。日常生活動線を活用した運動やリハビリの機会を設けており、筋力低下の予防や排泄の自立へと繋げている。事業所の階下にある運動場や体育館では、利用者と職員が地域の方と協働して夏祭りを開催したり、運動会に出場したりして、地域との交流を盛んに行っている。利用者一人ひとりが、これまでに培ってきた馴染みの関係を継続しつつ、安心して地域で暮らし続けることができるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			平野のどかの里 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員採用時には理念を伝え理解してもらえるよう努めている。申し送り時や日々の会話で理念に触れ日常のケアに努めている。	事業所では“居場所作りそれはあなたの笑顔をみたいから”を基本理念として玄関に掲げている。新規職員の採用時には、管理者から理念の意義等を伝えるようにしている。日頃から、理念を意識して支援するようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域広報を通じて周知される地域の行事には全員が参加している。今月は奉仕作業共楽運動会があり参加。施設の夏祭りには地域全戸を招待し日頃の感謝の気持ちを伝え交流している。	事業所では、地域のコミュニティや婦人会の方々との繋がりを大切に考え、地域行事には事業所として参加している。高校や大学の研修生を受け入れたり、のどかの里祭りには地域全戸を招待したりして、地域住民との交流を盛んに行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者 地域高齢者 地域の方と状況に応じて 娯楽や認知症サポーター研修等勉強会開催時には地域の方をお誘いしている。人材育成にむけ実習生の受け入れも行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	改善課題を取組み今は落ち着いている。行政の方の参加もあり、今後起こりうる災害についてを重点的に取り組んでいる。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。利用者の状況や行事について報告している。また、介護報酬の改正や事業所の抱えている経済的な状況等の現状報告も行っており、出席者から助言や意見を得ている。出された意見は、全職員で共有し、事業所の運営面に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	制度変わった時など積極的に情報を入れてくださる。又、事業所も待機待ち情報等についてや困りごとがあればお聞きしている。又、町主催の会議福祉検討会 高齢者 障害者安心生活事例検討会にも出席し情報を共有し連携をして頂いている。	管理者は、日頃から町主催の会議に出席している。町担当窓口を訪問し、事業所の現状や活動状況を話し合うようにしている。また、制度改正等の情報を得て、今後の取り組みや方向性を相談するなど、積極的に協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	那賀町 高齢者虐待対応手引きを配布していただいている。利用者が外室しそうな様子を察知したら止めるのでなくさりげなく声をかけたり についてゆく等安全面に配慮し自由な暮らしを支援している。	事業所では、町主催の虐待ネットワーク会議で得た情報等を全職員に伝えたり、職員間で身体拘束の弊害を正しく理解するための機会を設けたりして、拘束をしないケアについて話し合っている。さり気ない声がけや見守りを心がけ、安全に配慮したケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	パンフレットにより情報提供している。入浴介助も毎日交代している。身体や心理的表情的の観察も行い危険を早期に見つけ関係機関と連携できるシステムも構築している。町主催の虐待ネットワーク連絡会議にも出席している。。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			平野のどかの里 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	包括支援センター主催の高齢者虐待ネットワークや社会福祉協議会から日常生活自立支援事業や 生年後見人制度についてパンフレットを送ってくださるのでパンフレットを見て勉強している。今は対象者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に時間を取って、丁寧に説明し理解して頂けるよう心がけている。又、本人や家族には事業所のケア方針や取り組みに理解納得して頂いた上で契約できるよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の方には毎日意見要望をお聞きしている。ご家族の方には手紙や訪問時に問いかけ何でも言ってもらえるような雰囲気作りに努めている。管理者に直接電話かけてこられる方もおいでる。職員ミーティングにおいて取り上げサービスの質の向上に向けている。	来訪の少ない家族には、利用者の状況等を添えて手紙を送ったり、電話で連絡をとったりして、積極的に協力関係の構築に努めている。職員間で、出された意向や希望を話し合って運営面に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションをはかれるように心がけている。問いかけたり聞き出すよう心がけている。施設内で解決できることは職員で話しあい 解決できない事は支所町会にて議題に上げ 助言して頂き解決に向けている。	日頃から管理者は、職員と気軽にコミュニケーションを図ることができるよう心がけている。全職員との信頼関係を築いている。職員間で、出された意見や気付きを話し合っている。代表者と管理者が、相談しながら意見や提案を運営に反映できるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の福利厚生 of 充実に向けてソウェルクラブに加入している。昇給 ボーナス 退職制度 職員はもとよりパート職員さんにも有給制度あり 活用されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で 開催される研修には、なるべく多くの職員さんが受講出来る様にしている。認知症実践者研修に参加し勉強中の方もいる。実習生受け入れ時職員との話し合いの場も持っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ町内のグループホームでグループホーム協会実践者研修実習生 双方がお互いにトレードし職員研修に行かせて頂き互いに勉強させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			平野のどかの里 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用について相談があった時は必ず面話しご本人の心身状態やご本人の思いをお聞きし受け入れられるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	時間をかけた説明の中で 納得と同意が得られるよう努めている。介護の苦労や今までの経緯を傾聴することで家族の思いに寄り添い 話をしっかりと聴き関係性を築きながら相談を受けるよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な場合には可能な限り柔軟に対応し空き室がある場合はショートステイを提供している。場合によっては、他の事業所サービスにつなげるよう連携している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、支援される側という意識持たず、お互いが共同しながら和やかな生活できるような場面作りや声かけをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の様子や職員の思いをきめ細かく伝えることで、家族と職員の重いが徐々に重なり、本人を支えていくための協力関係が築ける事が多くなっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	恵まれた環境の元交流する機会が多い。地域のコミュニティの行事には積極的に参加している。なじみの知人と会う機会も頻繁にある。地域に暮らす友人や親類の方も定期的遊びに来て1日一緒に過ごして帰られる。	事業所では玄関を開放し、利用者の自由な暮らしの支援や家族の来訪しやすい雰囲気づくりに留意している。毎日、友人や知人の来訪を快く受け入れている。隣接する体育館や運動場では、地域の行事を盛んに開催されており、利用者が積極的に参加することができるよう支援している。地域との関係の継続に留意し、取り組みを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	施設の方針が体調不調者以外は1日皆で過ごすことを目標と掲げ、お茶食事以外も散歩ドライブ 紙芝居食事作り洗濯量等 皆で楽しく過ごす場面作りをするなど利用者同士の関係がうまくいくように 職員が調整役となり支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			平野のどかの里 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ありがたい事に退所された方の訪問がかなり多くあり、親がここで暮らせ幸せだった。この施設のお年寄りを元気にしてあげてくださいと野菜の差し入れも多くある。他の施設で死去され葬式前に訪問された方もお出る。利用者様全員で拝まして頂く。関係性を大切にすることを心がけている		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々 関わりの中で 本人の思いをお聞きしている。又 日々の言葉や行動 表情からも汲み取り職員間で話し合いご家族にも相談し情報を得よう心がけている。	職員は、利用者との関わり時間を多く設けるよう努めている。日頃の利用者との関わりをなかで、一人ひとりが思いや意向を表現しやすいよう配慮している。意思の把握が困難な方には、さり気なく寄り添い、暮らしの中から意向を汲み取ったり、家族や関係者から情報を得たりして、その人らしい暮らしの実現に向けた支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族にお聞きしたり、面会にいらした知人の方のお話の中からの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人お一人の生活リズムを理解すると共に行動や小さな動作から感じ取り 職員間で共有し本人の全体像の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関わりの中でご本人やご家族に思いや意見をお聞きし反映させるようにしている。問題があればその都度意見交換やカンファレンスを行っている。	事業所では、利用者や家族の意向の把握に努めている。日頃から職員は、利用者との関わりをなかで把握した些細な言動や気づき等を記録して職員間で話し合い、介護計画書を作成している。カンファレンスの際には、関係者間で意見交換を行い、介護計画の評価や見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	お一人お一人のファイルに食事 水分摂取量 排泄等の身体情報 日頃の暮らしの様子 本人の発する言葉を記録し全職員が確認できるようにしている。又、変化があれば計画の見直しを行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況に応じ、体調不調時の通院 夜間等に柔軟な対応を行っている。ご家族の協力を得られない方にはご本人 家族の思いをお聞きしながら臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			平野のどかの里 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中で交流する機会が多い。地域のコミュニティの行事には民生委員さん 婦人会 消防所職員 役場職員 地域の方との交流があり施設のことをわかってくださり協力してくだっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的な受診は 事業所の協力機関へ職員が介助している。 町外の専門医療機関への受診には家族の同行をお願いしている。 利用契約時にその旨説明し同意を得ている。緊急事態は臨機応変な対応を支援している	入居時の段階で、利用者や家族の希望するかかりつけ医を確認し、受診を支援している。協力医療機関との連携を行い、適切な医療を受けることができるよう支援している。専門科の受診時には、家族の協力を得て支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期受診時医療機関の看護師に日頃の健康管理や状態変化に応じた相談助言を頂いている。 電話での相談にも対応して下さる。時には医師に相談して下さり的確な助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時入院によるダメージを極力防ぐように家族施設医師と話し合う機会がある。施設での対応可能な段階で 退院できるよう情報伝達してくださっている。仕事以外でも親しみやすい関係になれるよう心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の運営方針として重度化に向けた対応はしない。家族より強い希望があった場合に医療機関のバックアップ頂ける場合のみ対応している。	契約時に、管理者から利用者と家族へ事業所の運営方針等を説明し理解を得ている。利用者の心身状況の変化に応じて、本人や家族、主治医、関係者官で話し合い、チーム全体で対応方針の再確認を行って終末期の支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回救急救命士に依頼し訓練を受ける機会を設けている。仕事以外でも婦人会やケーブルテレビでの広報活動でも個々に参加し自己研鑽していただいている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署職員や消防管理業者の協力を得て訓練している。	事業所では、消防署等の協力を得て避難訓練を実施している。利用者一人ひとりの居室の入り口に防空頭巾を用意している。利用者と職員で防災マニュアルを理解するための機会を設けており、実践的な防災訓練も実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			平野のどかの里 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	他の家族や外来者に対して、職員が本人のプライバシーに関することを話さないことを徹底している。日常的な言葉かけには特に気をつけている。	管理者と職員は、ミーティングの際に利用者の尊厳やプライバシーについて話し合っている。日頃の利用者との関わりを通じて、一人ひとりへの何気ない言葉かけのなかにも利用者の尊厳を傷つけることのないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事 着替え 日常的に自分が決めたら良いと思う項目は複数の選択肢を提案して利用者の方が自分で決める場面を作っている。利用者さまによってはわからんから決めてと職員を頼られる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には1日の日課は決まっている。一人一人の体調に配慮しながらその日したい事や得意とする事には主役となれるような支援 嫌と思われる時は休んで頂いたりその場の空気を読みながらケアに当たっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えは基本的に本人の意向で決めて頂いている。職員は見守りや支援が必要時にお手伝いするよう決めている。自己決定が困難な方には職員が寄り添い本人の気持ちにそった支援を心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皆で食事作りに参加できるような雰囲気作りを大切にしている。又、職員と利用者様が同じテーブルを囲んで食事する家族の雰囲気も大切にしている。	事業所では、利用者一人ひとりの食事の好みや希望を聞いている。毎食、職員が調理を行っている。地域の方から届いた新鮮な野菜や果物等の季節の食材を使って、その日の献立を考えている。利用者と職員でテーブルを囲み、家庭的な雰囲気の中で食事を楽しんでいる。お茶を注いだり、テーブル拭きをしたりしている利用者もあり、一人ひとりに役割を担ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日 食事 水分摂取量等の状況をチェックし個別ファイルに記入して職員間で共有している。定期的受診時の検査で栄養状態 脱水等早期発見して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを徹底している。夜間には義歯を洗浄し除菌を行い口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			平野のどかの里 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の記録から排泄時間や習慣を把握している。トイレ誘導する事でトイレでの排泄を促し失禁のないよう心がけている。就寝後も時間を見計らってトイレで排泄できるよう支援している。	事業所では、利用者一人ひとりの生活歴や排泄パターンを記録し、本人の排泄等のタイミングや状況に応じて夜間もトイレでの排泄を支援している。生活動線を意識した環境作りに努めており、下肢筋力の強化と排泄への自立に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品を採り入れている。散歩や体操等日常的に体を動かす機会も設けている。水分が少ない方には常時好きな時に飲めるよう机にペットボトルを置き食時以外の水分量を把握し自然排便できるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日順番を替える等平等に対応。又、全職員が体調確認し不安なく安全に入浴できるよう心がけている。季節に応じてゆず ショウブ湯 入浴剤を使用し入浴を楽しむ支援をしている。	毎日、利用者全員が入浴することができるよう支援している。利用者全員と全職員で、入浴の順番や洗濯物を干す場所等について相談し決めている。全職員で入浴支援に携わることで、利用者の心身の状態や体調の変化を見逃すことがないよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。又、その日体調不調で安眠できなかった方にはゆっくり休んで頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のコピーをとることで職員が内容を把握し理解している。受診時薬の変更があれば個人記録ファイルに詳細に記入し口頭でも申し送り職員間で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野でおひとりおひとりが力を発揮してもらえよう、お願いできそうな仕事を頼み、その都度感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は全員の方が毎日散歩に出かけている。受診 買い物 遠足 ドライブ お参り 花見 喫茶店でのお茶の他、地域の行事にも参加 四季折々の楽しみごとを利用者様と相談しながら行っている。	天気の良い日には、利用者全員が散歩に出かけることができるよう工夫している。利用者一人ひとりの希望に応じて、ドライブを兼ねた買い物や季節の花見へ出かけている。地域の催しや行事へ出かけることができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			平野のどかの里 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお金を預かっていない。ほしい物の買い物はご自身が選び購入している。支払いは家族がされている お金を持参しての買い物は家族同伴でされている。利用者様によっては、家族の理解が得られない方もおいでる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて日頃から、電話や手紙を出す支援はしている。面会に来てくださった方には年賀状を出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	恵まれた環境の元 春は桜 夏は台風 秋は紅葉 冬は雪等見て暮らしている。四季折々の旬のお野菜の差し入れがある。職員と季節感を取り入れた献立にするよう意識的に工夫している。	共用空間の窓からは、自然の山々を眺めることができ、室内にいながら季節の移り変わりを感じることができる。また、暖かな日差しが差し込む量のスペースには炬燵を設置しており、利用者同士の団らんの空間となっている。また、職員が食事の準備をしている様子を見ることもでき、家庭的で居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や座敷の部屋 廊下の椅子 個室にはソファがある。気の合うもの同士でくつろげるスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	籐の家具 籐の椅子 写真 時計それぞれ利用様の使い慣れたなじみの物を持ち込まれておられる方もおいでる。利用者様の居心地の良い環境となるよう配慮している。	事業所にはフローリングと畳の居室がある。入居時に利用者や家族と相談し、一人ひとりとこれまでの生活スタイルなどについて話し合い、馴染みの家具や写真等を持ち込んでもらっている。利用者や職員で居室の清掃や整理整頓を行っており、清掃も行き届いている。寒い季節には、湯たんぽを利用してもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱や不安 失敗が生じた場合その都度職員一同で話し合い本人の不安材料を取り除き不安なく安全に暮らせるよう環境面にも配慮をしている。		